



編集月旦 2014年5月号

★わが国は「人生90年時代」（「高齢社会対策大綱」から）を迎えているというのに、高齢者の多くはなお「人生65年時代」の余生を生きています。

3200万人に達した高齢者がこの意識を改革しないかぎり、「日本高齢社会」の形成は延滞しつづけます。世紀の潮流である「平和裏の高齢化」は、各国各地域に同様の「高齢者社会」をもたらしますが、「高齢社会」は独自の条件のもとで達成へと進みます。いま世界の関心は、わが国の「高齢社会」の動向に向けられています。☆2020年・「第32回東京オリンピック」（The Games of the XXXII Olympiad）の開催にむけて組織委員会が設けられ、各界著名人170人の顧問会議メンバーが発表され、国民の関心は「若者の祭典」へと動こうとしています。それとともにわが国は、高齢化トップランナー（金メダル候補）として、20年に1度の「高齢化に関する世界会議」（World Assembly on Aging・1982年ウイーン・2002年マドリード）の第3回会議（2022年）の招致をおこない、老青ふたつの国際イベントを同時進行し成功させることが役割であるといえます。そうすることで「オリンピック」の賛同も得られるでしょう。

★住み慣れた地域での高齢期の生活を包括的に確保する「地域包括ケアシステム」が動き出そうとしています。中核になるのは「医療・介護一体化」による「包括ケアセンター」ですが、すべての高齢者が無病期を豊かに過ごすために、新たな「モノ・居場所・しくみ」を創出する活動が同時になされる必要があります。全社協が主催した「生活支援サービス推進セミナー」（3・24）での原勝則・厚労省老健局長の説明と堀田力・さわやか福祉財団理事長の講演は、そのことを熱く呼びかけています。みんながわが人生の安心のために理解すべき内容です。自治体ごとの支援事業の強化は「高齢社会」への基礎固めです。

☆先行するわが国の「高齢社会」に関する活動の「リソースセンター」をつくらうという呼びかけが、RISTEXセミナーで、秋山弘子領域総括からなされています。全国の活動の成果を集積し、支援し合い、アジアの高齢途上国の要請にも応えようというものです。

☆各地各界の敬愛する高齢者のみなさんに呼びかけています。

◎「アベノミクス」政策では高齢者の実人生が軽視・黙止されている。

◎格差がひろがって長寿者への敬意が薄れていき、「高齢社会」にはむかわない。

◎2014年は「団塊の世代700万人」みんなが高齢者の仲間入りをする。

4人にひとり・25%・3200万人に達した高齢者層（65歳以上）が

- ・生活圏で新たな「モノ・居場所・しくみ」をつくりながら存在感を示すこと。
- ・世界に誇れる人材により世界に誇れる「長寿社会（平和の証）」の達成にむかうこと。
- ・国防軍ではなく平和な国際活動を展開することで国力を活かす日本の姿を示すこと。

◎「月刊丈風」は2012年5月発刊です。3年目の2014年5月号から購読層を広げ安定した刊行を続けるために購読支援をお願いしています（web公開はつづけます）。

1季・1コイン 半年・野口英世幣 「丈風仁人貴人録」をつくります。

「吾聞、富貴者送人以財、仁人者送人以言」（『史記「孔子世家」』の老子のことば）
われ聞く、富貴なる者は人に送るに財を以ってし、仁人なる者は人に送るに言を以ってす。

失礼があればお恕ください。

編集人 堀内正範 朝日新聞社社友(元『知恵蔵』編集長)

E-mail mhori888@ybb.ne.jp Tel & Fax 0475-42-5673

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 9340-8

